キサゾリンの合成法の開発 ○佐藤 和之', Graham SANDFORD², 小西 由紀子', Marcus J. LANCASHIRE², 樽井 敦', 表 雅章', 安藤 章' ('摂南大薬, ゚ダラム大)

樽升 教', 衣 雅早', 女縢 早'('摂附入桑, 'タフム入)
【目的】以前我々は、3,5-二置換イソキサゾールに対して選択的フッ素化反応を試

4-フルオロイソキサゾールの one-pot 合成および 4,4-ジフルオロ-5-ヒドロキシイソ

28AB-am006

【日的】以前状々は、3,3----直線イノイリノールに対して連水的ノツ素化反応を試 みたところ、用いるフッ素化剤の当量により 4-フルオロ体もしくは 4,4,5-トリフル オロ体が作り分けできることを見出した(Scheme 1)。今回、この反応の展開として、ジケトンから one-pot で4-フルオロ体を合成する方法、及び4,4.5-トリフルオ

口体から 4.4-ジフルオロ-5-ヒドロキシ体を合成する方法を検討した (Scheme 2).

O-N O-

他方、4,4,5-トリフルオロイソキサゾリンを HCI 存在下、ジオキサン中で加熱還流したところ、5 位に水酸基が導入された化合物が得られた. この様な化合物はこ

れまで報告されていないため、化合物の物性や生理活性などに期待が持てる。